

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203089		
法人名	医療法人和香会		
事業所名	グループホーム和らぎ飲み【和らぎ】		
所在地	倉敷市福田町古新田1051-2		
自己評価作成日	平成27年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203089-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成27年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して12年が経ち、「入居者さまが主役で共に生活すること」を念頭に、気持ちに寄り添えるケアを目指しています。顔なじみのスタッフと生活を少しでも長く安心して送って頂けるように、母体が医療法人という特色も活かし、病院、訪問看護ステーションと連携し支えています。また、ご家族さまと共に入居者さまを支えていけるように、畑の管理をご家族さまが中心になって下さったり、ご家族参加型の行事を設けています。気軽に立ち寄れる「家」になれるように、職員からご家族さまへ積極的に広報誌や電話、面会時に声をかけています。ホーム内では、なじみのある季節行事を行ったり、併設のデイサービスの利用者さまと一緒に行事を楽しんでいます。犬も飼っており、散歩にも出掛けています。ボランティアの方や実習生の受け入れを通して日々の充実を図っています。運営推進会議の参加者も多数ご参加があり、信頼関係の構築が図れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年設立以来ずっとこのホームとお付き合いをしてきたが、最近4年振りに改めて職員の利用者に対するケア活動を見て『認知症ケアがピカイチ』と絶賛の言葉を投げかけることができた。それは一人ひとりの利用者の輝きある表情と言葉、そして活発な行動を見て、満足と信頼感が満ち溢れている姿を見ることができたことである。利用者の中に入り、「気配り・目配り・声かけ・励まし等」の心のケアに徹している笑顔あふれる職員達の姿だった。どこのホームでも必要性を言葉で説明するところは多いが、このホームでは黙っていても職員全員の行動で納得することができた。心のケアについて具体的な目標をつくり実践しているが、先ず職員自身が心のゆとりとコミュニケーション能力をしっかりと身につけていることだと思う。そして職員が笑顔一杯で利用者さまに常に接していることにより、利用者が安心、満足、信頼の気持ちを持って生活が出来ているのだと実感できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、ユニットごと年度の目標を立てケアの統一を図っている。「職員、利用者さま、ご家族みんなが笑顔のあふれる和らぎに」を目標に楽しみ作り、情報共有、言葉遣いを意識している。	1日1回、法人の理念を唱和して職員間で意識の統一をしている。両ユニットの目標についてはトイレ内や事業所のよく目につくところに掲示して、楽しみ作りを職員から積極的に提供し、利用者と一緒に張りのある生活を目指して頑張っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普通の生活が送れるように地域資源を使うことを意識している。買い物や理美容店を利用したり、地域のゴミステーションへのゴミ捨てや当番、溝掃除の参加、周迎への散歩などを行い、日々交流を心掛けている。	ホームの近くに福田公園がありイベントのある時には利用者と参加して動物や地域の人との触れ合いを持っている。看護専門学校の実習生や中学生の職場体験、ボランティア、子供備中神楽等の訪問もあり地域との交流も幅広く行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学校からの実習生受け入れや中学生からのボランティア・職場体験の場として提供している。いきいきポイント活用のボランティアさまもおられる。ご家族向けに、高齢者支援センターに依頼し、認知症サポーター養成講座を実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議と行事を同日日に行うことで、参加者が増えている。自施設のことや認知症介護についての勉強会を開催したり、活発な意見交換が行えている。	市の担当者、民生委員、薬剤師、地域住民、家族、デイサービス職員、近隣GH等の参加があり2ヶ月に1回開催している。毎回、家族の参加が多く、今年度は「認知症サポーター養成講座」を開き3組の家族に介護体験を話してもらった等、有意義な会議が出来ている。	行事とセットにしたり土曜日に開催する等、家族が参加しやすい様な工夫をして多数の家族の参加を得ているが、まだまだ意思表示の出来る元気な利用者もいるので、今後は利用者の参加があっても良いのではと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	倉敷市の行う研修に参加している。また、事故の報告や、実地指導などよりアドバイスを頂いている。市の担当者と信頼関係が築けてきている。	運営推進会議には市の担当者の参加があり、ホームで開催した「認知症サポーター養成講座」では講師として協力をしてもらった。介護保険制度改正の説明等の情報提供や何かあればその都度担当者に相談して助言や指導を仰ぎ、良い連携が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないという信念で玄関の施錠についても、夜間帯のみで、日中は自由に入出入り・面会ができるようにしている。内部研修や毎月のカンファレンスで、身体拘束について、周知徹底するよう努めている。	日頃から身体拘束は一切ない。帰宅願望のある人には、職員と一緒に散歩やドライブで気分転換を図ったり、出来る事をしてもらって気を紛らわす等、利用者の心に寄り添うケアをしている。職員はスピーチロックを含め、身体拘束に関する研修をして周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部の研修で、高齢者虐待防止について理解を深め、徹底するように努めている。GH内でも、入居者への声かけや対応で気をつけることを掲示し、職員同士が注意しあえるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、成年後見制度が必要なケースも考えられるため、外部研修にて学びました。今後も、各職員の制度への理解が必要になると考えられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時前に、必ず施設見学とサービスの内容、ユニットの状況、利用料などの説明をし、実際の契約時にも、重ねて説明を行っている。料金変更についても、今年度4月変更時説明をし、全ご家族に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽にご要望を頂けるように、面会時などに、職員から積極的に利用者のご様子をお伝えしている。また、計画書説明時に、改めて、管理者より、ご要望を頂けるようにしたり、アンケートを実施し運営に活かしている。	ホーム全体で発行していた広報誌を6月より各ユニットの利用者毎に変更し、個々の写真掲載や状況報告の通信の裏に書ける人には自筆で家族宛に手紙を書いてもらっており家族に好評である。家族からの意見・提案・要望等は職員間で共有し運営に活かしている。	毎月の便りに利用者の自筆の手紙を添えるというアイデアは素晴らしいと思う。利用者の中にはしっかりした字と文章を書いている人もいる。これからもこの素晴らしい取り組みを是非続けていって欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、各職員の意見を尊重し、良いと思う事は、積極的に取り入れている。また、スタッフミーティングを月に1回行い、意見や提案を自由に行えるようにしている。個別面談を年に1回設け、相談にのっている。	毎月の各ユニット会議ではケアカンファレンスや内部研修等をして職員間で意見交換をしている。年1回の個人面談では意見や要望を言い易いようにお互いの別のユニットの管理者と面談する等の工夫をして、職員が話しやすい体制にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務帯について、利用者不自由なく、各職員が働きやすいように工夫をしている。管理職の評価だけでなく、各職員同士が相互相対評価を行っている。(賞与時)研修にも積極的に参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の内部研修、各職員が年に1回以上外部研修参加を目標に、各職員の力量や内容に応じた、外部研修に派遣している。また、個別面談時に、各職員に年間の個人目標を立ててもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に属している。水島地区の医療連携ネットワークでは役員や発表を行い、中心的に携わっている。当GHの見学も、制限なく受け入れている。近隣のGHの運営推進会議の参加をお互いに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当所は不安なことが多いため、声かけを積極的に行っている。信頼関係の構築を目指し、ご本人の要望や不安なことに対し、記録・分析・対策を行っている。ご家族とも連絡をとり、協力してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、十分な相談をしている。また、入居前の情報について、必要な機関へ情報提供をしている。利用者のご様子についても、入居後、数日以内に報告させてもらい、ご要望に沿えるようにケアを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が窓口となり、ご本人とご家族の状況を親身に相談にのりながら、適切なサービスを提供していけるように努めている。必要に応じて、他施設やデイサービスなどの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者は共に生活する者同士であることを念頭に置きながら、日々暮らしている。家事動作など、可能な利用者には、生活での役割を担ってもらい、「ありがとう」が行き交う生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで、日々の生活について、定期的に報告、連絡を行わせて頂いている。また、判断に困る事項では、ご本人の気持ちにそって、ご家族に相談をしたり、ご家族参加型の行事を年に6回企画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会をして頂き、近所の方や親せきの方も面会に来てもらっている。大切な人を少しでも忘れないように日々の声かけで取り入れている。必要に応じて、ご本人よりご家族へ電話を掛けてもらうこともある。	日常的に家族の面会が多く、近所の人や友人が面会に来てくれる人もいる。馴染みにしている理容室に散髪に行ったり、盆には墓参りに行く等の家族の協力もあり職員も個別支援をしている。ここでの生活の中で利用者同士が馴染みの関係になっている場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が円滑にいくように職員が間に入っている。相性が良い方と近い席になれるように、席の配慮や位置を思案している。利用者の状態により、職員が個別対応をし、関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、定期的に見舞いも兼ねて、訪問するようにしている。また、ご家族からの相談にも随時対応するようにしている。ご家族からのボランティアを有り難く受け入れ、行事には参加してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動より利用者さまの思いをくみとり、本人の希望や思いを出来る限り応えられるように、日々の記録や申し送り情報収集し、ケアカンファレンスやユニット会議で話し合いに努めている。	「鍋がしたい」「たこ焼きが作りたい」等の希望もあり、楽しい事や笑ってもらえる事等利用者の思いを出来る限り叶えてあげたいと、個性を大切にしながら利用者の満足度を高める工夫を職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査票を基に、利用者さまとの会話や面会時のご家族さまとの会話で生活歴の把握に努めている。聞いた情報を書類や申し送りノートに書き込み、スタッフ全員で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さま一人ひとりに目を向け、普段と少しでも変化があれば、職員間で情報を共有している。場合によって、バイタル測定を行ったり、記録、申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族さまから希望を聞き、目標設定をしている。また、職員間で、ケアカンファレンスを行い、モニタリングし、課題を挙げて、目標やサービス内容を決定している。	利用者の担当制を敷いており、計画作成担当者が中心になりサービス担当者会議をしてプランの検討をしている。8項目からなるアセスメント表は綿密であり、ケアプランの解決すべき課題(ニーズ)や目標が具体的にとても分かりやすい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を細かく生活記録や、申し送りノートに記入し、情報の共有をしている。実践や介護計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの利用者について、より良い生活を目指し、ユニット会議などで、十分検討し、必要な福祉用具や医療・看護・リハビリ支援を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふくだの里として、隣のデイサービスへの行事などで交流を行っている。また、近隣のスーパーへの買い物や理美容店を利用し、地域資源を使うことを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を基本に、協力医療機関の主治医と連携を図っている。受診支援も、業務と位置づけ必要に応じて、話し合いの場を設けたり、眼科や精神科などの専門医への受診の付き添いも行っている。	利用者の中には従来からのかかりつけ医を受診している人もいる。原則家族に受診の付き添いをお願いしているが、精神科受診には状態をよく把握している職員も同行する様にしている。母体が医療法人であり訪問診療や訪問看護等、24時間体制で連絡がとれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気付きについて週1回訪問看護師に報告・相談を行っている。緊急時は、迅速に訪問看護師又は外来看護師と連絡をとり、適切な受診が行えるように早めに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供や入院後の連絡調整を行っている。入院中に、退院時支援について、カンファレンスがあれば参加している。入院された場合でも、条件に応じて原則1か月の居室確保を保証している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の当事業所の方針を説明している。また、終末期に近くなっている利用者ご家族さまへは、改めて説明を行い、万が一が起きた場合に備えて頂いている。納得した最期を迎えられるように主治医へも随時意向を報告している。	開設以来4名の看取りを実施し、昨年度も1名の看取りをした。家族にも「いい形で看取る事が出来た」と喜ばれ、このホームでお願いしたいと次の入所につながった例もある。医療機関・家族等とよく話し合い、職員もターミナルの研修をして最期まで出来る限りの支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については毎年内部研修で取り入れている。また、マニュアルを基本に各自適切な対応ができるように、ユニット会議などで伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を実施し、避難経路、方法について、周知徹底している。消防署の方にも避難訓練をみてもらい、アドバイスを頂いた。また、近隣住民へも、万が一の場合の協力をお願いしている。	日中と夜間を想定した避難訓練を利用者と一緒に行っている。ホームは平屋なので隣接するデイサービスと合同で訓練を実施し、2階からの避難経路の模擬訓練もした。また消防署からDVDを借りて職員間で災害対策の研修もしている。	この地域は地震発生から津波が到達するまでの時間が3時間だと聞いたが、津波だけでなく、ホーム内の展示物や調度品の倒壊や落下防止等の対策を考えてみる必要もあると思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者さまに応じた声かけを行っている。利用者さまの世界観を大切に尊厳を持って対応している。接遇委員会による掲示物で、日々声かけや対応に気をつけている。	利用者の自尊心や羞恥心を損ねない様に、排泄の失敗がある人の居室にトイレマークを提示し「こちらへどうぞ」等とさり気なく声かけをして自室のトイレに誘導している。全室トイレと洗面所がありプライバシーが確保できている点でも安心である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物など、ご本人が選択できることはお聞きするようにしている。また、家事動作や手作業についても、無理強いせず、ご本人の希望で行えるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者さまのペースで、起床時間や食事の時間を配慮している。また、職員からの提案で、行事や外出支援、散歩の参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれをご家族に聞いたり、協力してもらいながら、支援している。個別に外出も兼ねて、散髪支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた献立を工夫している。畑の野菜の使用や利用者さまの食べたい物を聞いている。利用者さまはできる範囲で、食材の下ごしらえや盛り付け、食器洗いのお手伝いを職員と一緒にやっている。	外注の配食サービスを利用しているが、出来る限り職員の手作りの食事も提供している。今日の昼食の下準備では玉ねぎの皮むきや具材を包丁で切ったり、味見をしたりと利用者も各自が出来るお手伝いをしてきた。男性利用者の中には晩酌を楽しみにしている人もおり、主治医と相談の上、その人の希望に添った支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量を把握し、必要に応じて、水分量の把握を行っている。無理強いせず、水分補給をこまめに、提供している。便秘がちな方には乳製品をすすめたり、低栄養な方には卵や豆腐製品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に口腔ケアを行っている。また、必要な方には、毎食後、支援している。希望者には、訪問歯科が月に1回来ているので、歯科居宅療養管理指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレを備え、できる限りトイレにて排泄ができるように必要な方には2人介助をしている。個々の訴えやサインを大切に、必要に応じて声かけをし、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表で個々のリズムを把握し、適切な声かけと誘導をした結果、リハビリパンツから布パンツへと改善した例もある。かぶれ等の皮膚トラブルやコスト面を考慮して職員間で製品の種類を再検討し変更した結果、利用者の満足度が高くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ掃除にて、排便の有無を把握している。便秘気味の方には、水分量を多めにとってもらい、牛乳、ヨーグルトなどを提供している。また、下剤のコントロールを行い、便秘・下痢の予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を設けており、1日2～4名の入浴で、週に2～3回を目安に可能な限り提供している。ご本人の入りたい気持ちを尊重し、支援している。	大正・昭和の雰囲気や漂う檜風呂のある浴室は利用者にも好評で、懐かしいと喜んで入る人もいる。夜の入浴が習慣だった人には照明や時間帯を工夫する等、その人に合わせたムード作りや声かけをしている。重度化した人にはシャワー浴や足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意志を尊重しながら、リビングで過ごして頂いたり、自室で休んで頂いている。夜間は安心して休んで頂けるように、声かけ、環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の薬剤師より、アドバイスを頂いており、気軽に相談ができるように連携が図れている。また、薬表のファイルを作成しており、薬の効用や副作用を各職員が随時目に見えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、歌の提供や散歩、食事作りや洗濯物たたみ、掃除、紙ちぎり、お盆ふきなど家事動作を中心にしてもらっている。季節行事は、全員で取り組み、ほぼ毎月企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や餅つきなどの季節行事に加え、日常の日光浴、散歩、買物、散髪、畑の手入れなど、外の空気を少しでも吸う機会を持てるように考えている。秋にはご家族の協力もあり、福田公園のお祭りに全員参加することができた。	買い物に同行したり、出来る限り外出行事を設けてドライブや外食を楽しんでいる。ホームの飼い犬の散歩と一緒にいたり、天気の良い日は近くの公園の散歩が日課になっている。家族の協力を得ながら個別の外出支援にも力を入れていくように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、トラブル防止のため、個々の利用者さまは持っておられず、個々の買い物については、事業所が立て替えることにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からのご家族への連絡時に、電話を代わることがある方もおられる。手紙のやり取りは行っていないが、GHへ直接手紙が届いた際は、利用者さまへ届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さまの世代に応じた和風造りのホームであり、照明は間接照明、暖色系の光に統一している。廊下の各所に飾り棚を配置して、観葉植物や利用者さまの作品やなじみのある遊び道具を置いている。	懐かしい大正・昭和の雰囲気と天窓と縁台のある明るい長屋風の造りが両ユニットの持ち味になっている。夏はゴーヤのグリーンカーテンが涼しさを誘い、ウッドデッキは格好の日光浴の場所になっている。リビングの椅子の配置にも利用者同士が仲良く過ごせる工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたり、掘りごたつのある和室や廊下に縁台などを配置して、自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のものは全て持ち込みをお願いし、今まで使っていた家具などを用い、その人らしい部屋作りをご家族と一緒に考え、お願いしている。	居室は畳と障子を基調とした造りであるがトイレ・洗面所前はフローリングにして清潔に配慮している。自分で毎日布団を敷く人、夫の写真と位牌を置いている人、家族の顔を再認識する為に職員が気配りして大きな家族写真を沢山貼っている人等、それぞれ個性的でその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやイス、手すりの位置、キッチンの高さなど、高齢者に使いやすい低めの物を用意している。また、お部屋のタンスやベッドの配置などご本人の動線に配慮して配置するようにしている。		